

## 静岡県漁業協同組合連合会

1141 静岡市葵区追手町 9-18  
17. 4. 28 ☎054-254-6011  
編集・発行 = 指導部漁政課

### 1. 夏期竿釣ピンナガ来遊量水準 近年平均下回る予測

平成17年の竿釣漁業が対象とするピンナガマグロの来遊資源動向を予測する「17年度第1回カツオ・ピンナガSG(サブグループ)推進検討会」がこのほど、(独)水産総合研究センター遠洋水産研究所で、遠洋水研、水産庁、漁業情報サービスセンター、各県関係水試などの担当者が出席して行われました。

検討会では、竿釣漁期前のマグロ延縄で漁獲されたピンナガのCPUE(釣針100本当たりの漁獲尾数)や体長などのデータを踏まえて、竿釣漁業対象のピンナガ資源の来遊動向を取りまとめました。

それによると夏期竿釣ピンナガの来遊量水準は、4歳魚(延縄時3歳魚)および5歳魚(4歳魚)で、近年5カ年の平均や前年を下回ると予測しています。

漁場別に見ると伊豆列島西側漁場では、3月頃の海況は遠州灘で黒潮が大蛇行しており、表面水温も平年並みに比べ低めで、これらの魚群は一般的に北上が早いことなどから、近年5カ年平均より低く、4、5歳魚が主体となると思われます。また、西表島・伊豆列島東側漁場の南寄りでは5、6歳魚の一部が対象となりますが、これらの今漁期の来遊量水準は、6歳魚は高く5歳魚は低いと思われ、北寄り海域では、主体となる4歳魚の来遊量水準は平均より低いと思われ、東沖合での漁獲対象は、3、4歳魚で、4歳魚の来遊量水準は、近年5カ年の平均より低いと思われ。

### 2. JFライフジャケット初の保険金支払い

- JF全漁連情報 -

JF全漁連が取り扱っているJFライフジャケットには、補償対象者に対し、補償期間中・着用時の海中転落事故に対する捜索費用給付金制度が付保されており、この度初の保険金(一律25万円)支払が発生しました。

この事故は今年1月22日、長崎県美津島町大船越しの沖で発生し、JF美津島町の組合員1名が、岩ノリ採取に出港したまま寄港しませんでした。このため、漁協組合員らが捜索を行い、ライフジャケットを着用し、漂流中の本人を発見、無事救助しました。

JF全漁連購買事業部資材課の担当者によると「一人乗り小型漁船はライフジャケットの着用が義務化されていますが、海中転落事故の生存率は、救命胴衣着用時は82%で、未着用時は21%です。救命胴衣は海のシートベルト!着用を忘れないで」と話しています。

### 3. 「農水産物しずおかブランド魅力発信in北海道」開催のお知らせ

県農業水産部では、県産業界全体の取り組みとしての「静岡県産業経済交流団体の北海道訪問」を有効活用し、北海道における本県産農水産物のブランド定着や販路拡大を目指すため「農水産物しずおかブランド魅力発信in北海道」を開催します。

本県農水産物は恵まれた立地条件を生かし、その多くは大消費地である首都圏市場に出荷されており、品質は関係者の高い評価を得ていますが、近年、経済活動の停滞や海外からの廉価な輸入品の増加などから、その優位性の低下が懸念されるとともに、産地

間競争も今後ますます激化するものと考えられます。

さらに、卸売市場法改正や多様化する消費者ニーズへの的確な対応が求められ、県としては静岡空港の開港も視野にいれ、国内外への効果的なPR活動や質の高い情報発信などによりしずおかブランドの確立に努め、「売れる農水産物づくり」に取り組んでいます。

なお、水産関係では本会、由比港・丸榛吉田うなぎ漁協、県水産加工連及び、その組合員が参加し、北海道で本県の代表的な魚である、ウナギ、カツオ、サクラエビ、シラス等をアピールすることになっているほか、御前崎の近海カツオ、キンメダイ、イセエビ等が食材提供されることが予定されています。

日程：平成17年5月25～27日 参加者：県内の農業水産関係者(50名程度)

問合せ先：県農業水産部企画調整室 TEL：054-221-2605

### 4. 平成16年度水産白書を公表

水産庁では水産政策審議会を開き、去る4月22日平成16年度の「水産の動向に関する年次報告書」<水産白書>を公表しました。

この白書は、第1部「水産の動向」、第2部「16年で講じた水産施策」と大別し、昨年と同様に水産業界の1年を振り返るトピックスのほか、「近年の漁業経営を取り巻く環境」「漁村の現状と水産業・漁村の多面的機能」の2つを特集に取り上げています。

特集の一つとなった漁業経営を取り巻く環境では、経営体数の減少に伴い、漁業者就業数が増加していることから、高齢化が進んでいることを表やグラフを用いて説明しているほか、ここ数年の経営環境の悪化をデータで示し、影響を与えている要因を新たに分析しています。もう一つの漁村の現状と水産業・漁村の多面的機能では、図や写真を多く使い、事例を交え資源化リサイクル機能、地域社会の形成・維持、生命財産保全の役割などを述べています。

トピックスでは、貿易自由化の流れ、全世界海域でマグロの管理体制構築、世界を目指す日本の水産物といった社会的な内容から、完全養殖マグロ出荷開始、青色発光ダイオードによるイカ集魚灯など、最近の明るい話題も取り上げています。

第2部の水産施策では、水産に関する施策を総合・計画的に推進するための取り組みを含めて、昨年度に講じられた水産物の安定供給、水産業の健全な発展、団体の再編整備、その他の重点施策など、それぞれについて分かりやすく説明されています。

### 5. 諸会議日程(5月3日(火)～5月16日(月))

- 既報分省略 -

5月10日(火) 県漁港漁場協会 = 監査会 (ブケ東海)

" 県おさかな普及協議会 = 幹事会 (県水産会館)

5月11日(水) 県漁港漁場協会 = 理事会 (ブケ東海)

" 県遊漁船業協会 = 監査会・役員会 (県水産会館)

5月12日(木) 県JF共済推進本部

= 第1回JF共済清水・焼津・榛原・西部地区推進協議会 (県水産会館)

5月14日(土) 県桜えび漁業組合 = 桜えび出漁対策委員会 (ブケ東海)

5月16日(月) 県漁業信用基金協会 = 監事会 (県水産会館)

- お知らせ - 次号本誌の発行は、ゴールデンウィークにつき5月13日(金)となります。